

台風15号の被災をふまえた防災対策を 日本共産党名古屋議団が緊急要望（9月30日）

9月20日から21日に襲来した台風15号は名古屋市にも大きな被害をもたらしました。日本共産党名古屋議団は現地調査なども踏まえたうえで、9月30日、河村市長に対し、「台風15号の被災を踏まえ本市の防災対策に関する緊急要望」を提出し、防災室長と河川工務課長の説明を受けました。

守山区のくれまつ順子前議員も参加し、「浸水被害者の要望に誠実な対応を」「市の対応や被害などを検証し市民に公表する」ことなどを求めました。

懇談の中で、東海豪雨に比べると、市内の雨量そのものは東海豪雨より少なかったが、多治見での豪雨が庄内川に流れ込み、それが市内に到達するところに市内で大雨になっていたことが明らかにされ、ひ門の閉鎖も、各地の通行止めなどで人手が不足し公報にまで手が回らず、今後の課題だと認識していることや堤防改修の促進を求めて、30日に国交省へ要望に行っていることが紹介されました。

東海豪雨後の集中的な対策で貯留施設やポンプなどが改善され、内水氾濫の防止には大きな効果がありましたが、河川の堤防改修がまだまだ遅れています。安心・安全な名古屋づくりさらに力を入れるよう求めました。



防災対策緊急要望の主な内容

- ・ 浸水被害者の救援、復旧、補償要望に誠実に対応すること
- ・ 気象状況、被害や避難の状況、災害対策の経過を整理し、市民的検証の素材となるようわかりやすい形で公表すること
- ・ その他
庄内川などの河川の状況、守山区吉根地域の水門の対応、避難勧告・避難指示などの防災情報や避難所の整備・運営、学校や保育園、福祉施設の対応、職員の非常配置、帰宅困難者対応、サンライズ志段味への対応について要望しました。詳しくはホームページをご覧ください。

守山区の浸水被害を調査

わしの恵子、山口清明、岡田ゆき子の各市議は9月23日、台風15号で庄内川が氾濫、被害を受けた守山区を調査しました。

下志段味地区では庄内川のカーブの内側(左岸)から水が氾濫し、道路が150cmほど冠水。事務所に残り残された人や流されそうになった人が救助されました。工場では水に浸かった商品や機材の片付け作業に追われ、駐車場には水没した車がはいっぱいです。

都市整備公社の開発部長は「庄内川沿いで水があふれたのはこの地区だけ。東海豪雨後、優先順位が高い下流から大規模な改修工事を行っているが、改修が間に合っていれば浸水を防げたのではないか」と工事の遅れを指摘しました。堤防400mのかさ上げ工事は今秋から始め、来年1月完了予定でした。

桔梗平地区では、庄内川の水位が基準値まで上がり排水路の水門(吉根排水ひ管)を閉めたが、水門から水があふれて新興住宅が浸水しました。住民が水門

を閉めたことを知ったのは90分も後で、すでに胸まで浸水していたそうで、広報の遅れが問われます。

守山区全体の被害状況は床上浸水65棟、床下浸水220棟でした(9月29日時点)。閉門の判断、サイレンの設置や避難に関すること、住民への補償、住宅建築許可の見直しなど多くの課題が残されました。

調査には井上さとし参院議員、くれまつ順子前市議も参加しました。

